



安寧

兵庫縣姫路護國神社社報
 「安寧」第二十三号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒670-0003 姫路市本町一八
 電話 〇七九一二四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

英霊の言乃葉

遺書

陸軍兵長 玉田久太夫命

昭和二十年四月八日

フィリピン ルソン島にて戦死

兵庫県多可郡中町出身 三十三歳

其の後変はりなきや、俺はこの度戦地に向かふについて最後に一言を記す。
 お前は俺のもとに嫁いで一意貞節をもつて又、温情をもつて今日まで
 約十ヶ年、本当によく盡してくれた事を深く感謝する。

お前と結婚して十ヶ年、あまり長い契りとも言へないが、思ひ出せば、
 懐かしく又、嬉しき事もあり、だ。しかし、俺も一度家を出たからは、
 敢へて生還は期すことは出来ない。しかし、これこそ皇国男子の本懐だ。
 又、俺の戦死を聞いても決して取り乱した振る舞ひはしてくれないな。
 俺は一足先にあの世とかへ行つて、お前の必ず来るのを待つてゐる。
 二十年三十年は長い様でも悠久の天地から見れば、ほんの一瞬だ。

(中略)

何卒、今後は身の重責を自覚して健康に注意して、俺亡き後は心丈夫に
 しつかりとこの世の中を渡つてくれる事、靖國の社内より祈つて居る。
 又、幼児成長すれば一度は靖國神社へ連れて参つてくれ。
 では家内皆、達者で暮らしてくれ。なほ村の人や親類や友達にも宜しくね。

玉田久太夫

玉田志ずゑ殿

(靖國神社社務所)
 平成三十一年四月 社頭掲示



即位礼正殿の儀奉告祭

十月二十二日(祝日)



天皇様(上皇陛下)がご讓位され、五月一日新帝陛下が踐祚、そして令和に改元された。十月二十二日には即位を天照大神にご奉告され国内外に即位を宣言される「即位礼正殿の儀」が行われた。当神社では午前十一時より総代、崇



親子で参列する参拝者

敬奉賛会会員百名余りの参列の元、「即位礼の当日行う祭祀」奉告祭を執り行った。宮司は祝詞奏上で、ご英霊に本日、新帝が高御座に上られることを奉告、御代の安らかならんことを祈願した。総代会長、崇敬奉賛会長が玉串奉奠し、参列者は合わせて参拝した。祭典終了後、場所を参集殿に移して、崇敬奉賛会の前川氏、土肥氏の編集された、国民の祭典をはじめ皇室の神事などの「御代替わりの記録」、を鑑賞、食事ののち、インターネットテレビで同時中継された「即位礼正殿の儀」を拝見、陛下が高御座に坐されて安倍首相が万歳の音頭を執られるのにあわせて参加者一同聖寿万歳を斉唱し、令和の時代の安泰を祈った。

秋季例大祭

十一月二日



宮司以下祭員拝殿へと参進

好天に恵まれた秋晴れの日定刻十時三十分の号鼓とともに宮司以下祭典に奉仕する神職、大祭委員長(総代会長三木英一氏) 崇敬奉賛会会長三宅知行氏が参進、修祓の後、海川山野の神饌を捧げ、茶道裏千家淡交会播磨支部の献茶ののち宮司祝詞奏上、姫路市民合唱団による合唱

奉納と続いた。玉串奉奠は代表遺族に続き、総代、崇敬奉賛会、来賓と参拝した。

宮司は挨拶で「直接ご英霊のご生前を知る方、あるいはご生前を知る方からのお話を聞いた方々は時間がたつにつれ少なくなつて行きます。特に若く一〇代、二〇代前半、独身で散華せられた方には残されたお身内は限られています。しかし、国家を、家族を守ろうとした御心を、私たちはしっかりと受け継ぐことができます。我が国が近代国家と成熟していく過程で明治以来の戦役、事変、戦争という国家の受難の時代に生まれ、殉じられた方々をたたえることは私達子孫の務めであり、ます。どうかこの祭典を受け継いでいくためにいろんな世代の方々、たくさんに引き続きご支援を賜りたいと存じます。」と祭典の支援を訴えた。祭典受付は毎年姫路郷友会（会長福本正明氏）の方々が奉仕している。



献茶の儀



姫路市民合唱団による合唱奉納

「兵庫県神道青年会

靖國神社 正式参拝」に参加して

兵庫縣姫路護國神社 禰宜 泉 慶太郎

今回四十歳までの青年神職で構成される兵庫県神道青年会にて御大典記念教化研修会として、靖國神社へ正式参拝・遊就館の見学、大嘗祭が斎行された大嘗宮の見学、國學院大學教授齋藤智朗氏による「近代における皇室制度と御代替わり」というテーマにて講義を受けた。

今研修会やはり神職として大嘗宮は見学しておくべきという事と、近年はSNSの爆発的

な普及などにより我々は日々迅速な対応を求められる。その時代において変革に正常な価値観をもつて物事を判断出来るようにと企画した研修である。先人は生きていた時代において、常に祖国の発展と安寧を願う国を導いてきた。その積み重ねが今の日本であると思う。

自分ファーストな現代において「公」の精神は若い人々には中々伝わりづらいようにも思

う。「誰かのために」というのであれば多少伝わるのであろうが、ご英霊が持った「公」とはもっと崇高なる精神であろう。参加者二十六名はそれぞれの時間の使い方、遊就館を見学し、自分と重ね合わせ、ご英霊の残された遺書や手紙を読んでいた姿が印象深く、今研修会を有意義なものとしてきたと感じた。

大嘗宮は建物は簡素な作りであったが、その佇まいに、参加者や他の見学者とも万世一系の天皇陛下を戴くこの国に生まれてきた有難さを共有できたように思う。



大嘗宮見学の様子



令和初のお正月
新年万燈祭
一月元旦〜十日

崇敬奉賛会新年祈願祭は毎年成人の日に行われる。祭典は午前十一時に斎行され、三宅知行会長以下六十三名の参加者は国家の安泰、護國神社の隆昌と崇敬奉賛会の発展、会員の健勝を

崇敬奉賛会新年祈願祭
一月十三日(成人の日)

令和初のお正月を迎え、天候にも恵まれ、参拝者は大幅に増加した。ご遺族崇敬者ご奉納の境内一面に飾られた神前献灯二〇〇〇灯の下には、鳥居の外まで参拝者の列が絶え間なく続いた。ご高齢のご遺族が奉納された提燈の場所を、孫やひ孫の方と探されるほほえましい姿があちこちで見られた。昨年の改元以来、ご朱印を求め参拝者が激増しているが、お正月も朱印帳を片手に新年参拝をされる姿があふれた。



鳥居外まで続く参拝者の行列



着物でおみくじをひく外国人



三宅会長のご挨拶



お祝いの品を受けとる釜谷副会長



祈願祭



安田二三男氏のマジック

祈った。直会では 崇敬奉賛会常任理事木南一志氏の司会の元、前川英昭氏作成の今上陛下の映像を鑑賞したのち、しらすマジック研究会安田二三男氏の軽快な話術を伴った絶妙な手品で新年を楽しんだ。当会副会長釜谷研造氏が名誉ある叙勲に浴され、三宅会長からお祝いの品が贈られた。



式典の様子

建 国 祭

二月十一日(建国記念の日)

姫路郷友会、霊友会、隊友会、日本会議の四団体からなる「建国を祝う会姫路実行委員会」が主催し、紀元二千六百八十年を祝う建国祭が、斎行された。

午前九時より参集殿二階で、講演会が開かれ始めに、護國神社総代会長の三木英一氏は、「神武天皇の御即位と三大神勅について」と題し、「天壤無窮の神勅」や「建国の大詔」、紀元節が定められた経緯を解説した。続いて、日本会議女性兵庫の会の事務局長山田ひろ子氏が「女性から見た御皇室」について講義した。



聖寿万歳

講演会の後、参加者は御殿前に移動。十一時より厳粛な空気の下神事が、執り行われた。参加者は二百名を超えた。宮司は祭典終了時に「昨年とは踐祚改元 御代替わりの年であり、四月のご讓位から即位礼正殿の儀 大嘗祭と日本最古の歴史書である古事記 日本書紀に記載のごとお祭りごとが続いた」ことに触れ「どうか今日一日 ご英霊はもとよりよき伝統を守り続けてきたご先祖に感謝し、日本の歴史を振り返る有意義な一日をお過ごしください」と結んだ。続いて、奉祝式典がおこなわれ、実行委員会委員長三木英一氏が開会の挨拶、国歌斉唱、福本正明副会長の先導で榎原神宮遥拝と続き、来賓として国会議員松本剛明氏、加田裕之氏が挨拶、「紀元節」の歌を全員で奉唱し、三枝副三副会長の音頭で万歳三唱、天田博子副会長が閉会の挨拶をして式典を終えた。

そのうち、参加者は、霊友会の奉仕で販売された温かいうどんやケーキを食しながら、建国の日を神社で有意義に過ごした。

天 長 祭

二月二十三日(天皇誕生日)

御即位後初めてのお誕生日を迎えられる日、護國神社では、総代、崇敬奉賛会会員四十名とともに奉告祭を斎行、陛下のお誕生日を祝った。尚、新型コロナウイルス感染予防のため直会は中止とした。

シリーズ 英霊の戦場(十四)

ガ島を巡る日米海軍の激突

ガ島攻防戦では陸軍の悲惨な戦闘が衆知されていますが、元々海軍の作戦に陸軍が全面的に協力した戦場、そこで海軍も全力を以て米艦隊に決戦を挑み相当の戦果を得たものの結果としてミッドウエー海戦以上の損害を被り、戦力復元能力及び軍事技術力の差から連合軍の反攻速度を許すこととなった。敵戦力を軽視した甘い作戦指導の失敗は結果として多くの歴戦勇士を失い、防衛態勢の維持が難しくなった。

紙面の関係で記述する海戦は概要に止めます。又、特別な艦名以外、日米戦果・損害(人員を含む)比較表も省略します。

付図の○・□記号は戦闘位置を示しますが戦史に興味ある方は多くの書籍が出版されていますので正確な位置をご自身でご確認下さい。

②第二次ソロモン海戦(昭和十七年八月二十四日)

(姫路護國神社に祀られている「英霊：十二柱」)

第一次ソロモン海戦で大損害を受けた米海軍艦隊は輸送船団と共にガ島から戦力回復の為撤退、八月十日、日本軍主席参謀搭乗の偵察機はガ島飛行場付近を視察した結果、「米軍は大半が撤退し、取り残された疲労した兵士が居るのみ」との報告が作戦室に先入観を固定させた。(事実、米軍は食料不足で日本軍の遺棄糧食を得て辛うじて体力を保持していた。)

尚、十三日、伊百二十三潜水艦が強行偵察した結果「敵兵力は大、重装備も相当大」と報告したが無視された。ガ島奪回の好機と見た大本営は一木支隊を二分して先遣隊を駆逐艦六隻に分乗させ十八日上陸。一木支隊長は軽装備のまま二十一日突撃、二十五日全滅が確認された。

八月十六日、一木支隊の第二梯団と川口支隊(歩兵二箇大隊基幹)をガ島(上陸予定二十二日)に派遣すべく出港、その船団の速度は時速十五キロ、二十日、飛行艇が空母を含む敵機動艦隊を発見、連合艦隊は敵艦隊撃滅の好機と判断し船団護衛を兼ねて第二艦隊(前衛部隊)と第三艦隊(機動部隊)に出撃を命じた。両艦隊は細部の打合せもしないまま進撃した。一方米海軍は新造戦艦二隻、防空巡洋艦、空母(計三隻)等を増強して日本艦隊に備えていた。

二十四日朝、前衛部隊の空母(龍驤)からガ島飛行場爆撃に発進した後、敵艦爆と雷撃機に襲撃され撃沈される。午後一時半、索敵機がやつと米機動部隊を発見、機動部隊から艦爆二十七機、零戦十機が発進して空母二隻の内エンタープライズに爆弾命中し中破、然しレーダーで探知され、戦闘機の待ち伏せに艦爆は十七機・零戦三機を失う。第二波で発進した艦爆二十七機・零戦九機は通信不通で敵艦を発見出来ず帰投した。尚、米軍も通信不通で珊瑚礁を日本艦隊と誤認して爆撃する不手際もあった。結果として低速船団による輸送は困難と判明、駆逐艦による夜間輸送(鼠輸送)で軽装備の川口支隊や一木支隊の第二梯団をガ島に上陸させる作戦が採用。

特記：伊十九潜水艦(艦長：木梨鷹一中佐)が米空母

ワズプと駆逐艦を撃沈(昭和十七年九月十五日)★

潜航したままで近づき距離九百メートルで魚雷六発発射、内三発が命中、燃料に引火して大火災となり、鎮火回復の見込みなしと判断され自軍駆逐艦が撃沈処分した。外れた三発は一万メートル離れていた戦艦ノースカロライナ(中破)と駆逐艦オプライエン(沈没)に命中。日本魚雷の高性能が立証された。

③サボ島沖海戦(昭和十七年十月十一日)

(姫路護國神社に祀られている「英霊：二〇柱」)

第二次ソロモン海戦の後、米軍はソロモン諸島に沿

岸監視員を配置、日本軍の鼠輸送(米軍呼称「東京急行」)を阻止すべく情報網を構築、日本軍の航空機と艦隊の規模・進路情報が米軍司令部に収集された。

ガ島に進出した第十七軍司令官百武中将は火砲・弾薬の揚陸が著しく不足しているとして輸送船団の使用を要請した。海軍は十一日夜に水上機母艦二隻、駆逐艦六隻を以て師団将兵と軍需品輸送(重火器含まず)を計画、支援に第六戦隊重巡三隻(青葉・古鷹・衣笠)、駆逐艦二隻(吹雪・叢雲)を出撃させ、ガ島飛行場を夜間砲撃して敵機の制圧を企図した。情報から、この動きを察知した米海軍は重巡二隻・軽巡二隻・駆逐艦五隻で第六戦隊の予想経路をレーダーで探知中、一万六千メートル先に日本の艦隊を発見、レーダー射撃で初弾から青葉・吹雪に命中し、艦隊司令官の五藤少将が戦死する等最悪の不意打ちを受けた。難を逃れた衣笠は直ちに戦闘態勢に入り米巡洋艦隊に砲撃を開始、然し、右に反転した古鷹と吹雪に米艦隊の砲撃が集中し、二隻とも転舵中に沈没。衣笠と青葉は北西に退避したが砲撃が収まった後、叢雲と駆けつけた僚艦の夏雲が古鷹と吹雪の生存者救助活動中、朝方米急降下爆撃機と戦闘機の攻撃を受けて二隻共撃沈された。この砲撃戦中、水上機母艦と駆逐艦の輸送(軽装備の人員)は成功した。海軍得意の夜戦が今後苦戦する前触れとなった。

④南太平洋海戦(昭和十七年十月二十六日)

(姫路護國神社に祀られている「英霊：二二柱」)

ガ島の陸戦は激戦が続く中、第二師団は総攻撃を企図、この戦闘を海空から支援するためミッドウエーを指揮した南雲中将は反省から新戦術を駆使して空母四隻率いて戦いに臨んだ。米海軍は空母二隻と新鋭戦艦・防空巡洋艦等を率いて出撃。この海戦は空母対空母の闘いとなり、航空戦史に興味ある方にとっては双方搭乗員の技量・敢闘精神に驚嘆される闘いでもあった。複雑な戦闘様相ですが日本軍は敵空母二隻に沈没と中

破の戦果を挙げた。然し、開戦以来のベテラン搭乗員を大半失い、其の上、第二師団の総攻撃に寄与できなかった戦略的に苦しい結果となった。米軍は開戦と同時に搭乗員の大量養成を開始したのに対し日本はミッドウエー敗北から慌てて養成開始、然も米軍の搭乗員救助重視に対し重視しなかった。この影響は終戦まで回復出来ないまま特攻作戦へと突き進む主因となった。

⑤第三次ソロモン海戦 (昭和十七年十一月十二〜十四日)

(姫路護國神社に祀られている) (英霊…一三柱)

第二師団の総攻撃失敗で焦った日本軍は輸送船団で三八師団と大量の重装備を揚陸させる必要を感じ、其の為、戦艦部隊をもって、ガ島飛行場を砲撃して無力化した後、駆逐艦で護衛した輸送船団を派遣しようとして準備を進めた。この動きを察知した米海軍は重巡洋艦隊を組織して待ち伏せ位置に差し向けた。

この作戦は南太平洋作戦の過大戦果を鵜のみにしたもので実情はガ島の米陸軍も航空隊も増強されていた。十二日夜、飛行場砲撃位置に近づいた戦艦群は猛雨に遭遇、一旦反転したが雨が止み再度反転した処、敵の重巡正面に突入り乱戦となる。戦艦比叡は探照灯を照射し敵艦に命中弾を浴びせるも飛行場攻撃用の焼夷弾を使用した為敵艦の被害は軽微で逆に集中砲撃を受け大破、翌日空爆を受けて自沈処分。日本海軍は初めて戦艦を喪失した。然し米艦隊も軽巡二隻、駆逐艦四隻が撃沈される損害を受けた。十四日は空爆で輸送船六隻撃沈。戦艦霧島は米海軍新鋭戦艦の防御力と火砲の威力に耐えられず撃沈され、飛行場砲撃は中止戦艦二隻の損失は甚大であった。



西田正雄大佐

尚、戦艦比叡の艦長はたつの市出身の西田正雄大佐、自沈する艦と運命を伴しようとして部下に訣別の姿勢を示したが、戦隊指揮官の

阿部弘毅中将から海軍の将来を担う人物を失うことは耐え難いと部下に命じて救出させた。但し、後に司令部から阿部中将と共に予備役に格下げされてしまった。

⑥ルンガ沖夜戦 (昭和十七年十一月三十日)

(姫路護國神社に祀られている) (英霊…一四柱)

第三次ソロモン海戦で船団輸送に失敗した海軍はドラム缶輸送に切換え田中頼三少将指揮する第二水雷戦隊 (駆逐艦八隻) に命じ出撃。米海軍は日本艦隊の接近情報を得て重巡四隻・軽巡一隻・駆逐艦六隻で待ち構えていた。レーダーで日本艦隊を発見し戦闘態勢を完了した直前、日本側も敵艦を発見、ドラム缶移送準備を中止直ちに戦闘態勢に移行、然し米海軍の魚雷攻撃と砲撃が駆逐艦高波に集中、大火災を起こした。日本側の反撃も素早く高性能の酸素魚雷を五〇本発射、重巡四隻に命中、一隻撃沈、三隻大破。日本は高波一隻沈没。此の損害を知った米海軍は敵将の田中少将を「名提督」と称賛したが、連合艦隊司令部は同少将を評価せず、陸上勤務に左遷した。

⑦レンネル島沖海戦

(昭和十八年一月二十九〜三十日)

(姫路護國神社に祀られている)

(英霊…三三柱)

ガ島撤退を決定した陸海軍はそれまでも鼠輸送と敵艦への空爆を続行してガ島は奪還するとの企図を米軍に与える為、哨戒機で敵艦隊を索敵中、サンクリストバル島

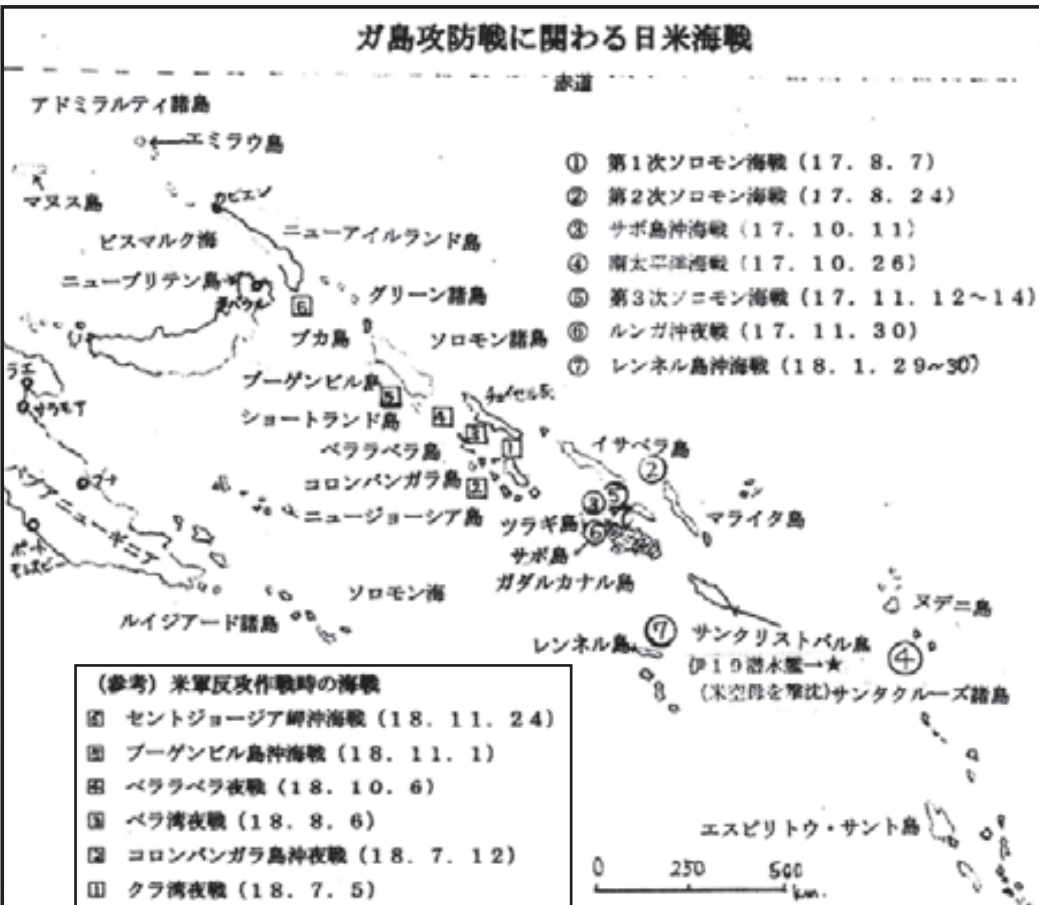
近くで発見、陸攻三〇機で続いて十一機で攻撃、重巡一隻撃沈、損害は一〇機、この果敢な戦闘により米海軍をガ島から隔離させ、結果二月一日から将兵計一万三千名の撤退を成功させた。

参考資料 防衛省戦史叢書

太平洋戦争 海戦ガイド 新紀元社出版

(文責) 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎

ガ島攻防戦に関わる日米海戦



崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた
英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで
いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を
支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し
そして汗をかき、
涙を流しましょう

奉賛会事務局
〒670-0012
兵庫県姫路市本町118
電話 079-224-0896
<http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/>

巫女さん募集のお知らせ

誠実で明るい方お待ちしております

【募集資格】

十八歳～二十五歳 未婚の女性
※頭髪の染色不可

【雇用形態】

正社員 ※社会保険完備

【勤務時間】

午前八時～午後五時

【休日】

月八回不定期

【職務内容】

祭事（ご祈祷・結婚式など）に神職とともに
奉仕のほか、社殿清掃、神楽舞や一般事務



自然に囲まれた環境で歴史に触れることができ、
参拝者との対応によって自然の大きな力を
感じることができる環境です。
ぜひご応募ください。

【申込み方法】

詳細は電話・メールにてお問い合わせください。
電話：〇七九一二四一〇八九六
メール：gokoku.miko@gmail.com

令和二年五月二日
午前十時三十分斎行

春季例大祭について

新型肺炎コロナウイルス 感染予防の対応

現在、国や地方公共団体が感染
拡大防止について対策を講じてい
ますが、現在、終息の見通しが不明
であります。

神社と致しましては恒例の祭典
でありますので、神事は必ず斎行
致しますが、規模を縮小し、時間
を短縮して執行致します。

ご参列については各個人のご判
断にお任せを致します。